

国立および北海道立の農業関係の試験研究機関 会議への参加について

土壌保全研究室
農業土木研究室

1. はじめに

北海道の農業に関するいくつかの数値を、全国の値に対する比率で示すと、耕地面積(全国：517千ha)は23%，農業粗生産額(同11兆2千億円)は10%，販売農家数(同289万戸)は3%，大規模(耕地面積5ha以上)農家数(同87千戸)は64%を占め、北海道は全国一の農業自治体である。これは農業の振興が、北海道の発展にとって不可欠であることを物語っている。

このため、北海道には公立の農業関係の試験研究機関も多く、農林水産省所管の農業試験場等の研究職員が約180名、北海道立の農業試験場等の研究職員が約360名、さらに、開発土木研究所にも農業部門の研究職員が16名在籍し、日ごとそれぞれの部署で農業に係わる試験研究に従事している。

昭和43年以来、北海道地域では、農林水産省と北海道立の農業試験場が北海道農業試験会議を共催で設け、各々の試験研究の企画、実施および評価に関して、打合わせ・検討を行ってきた。この会議において、当研究所の農業部門は必要に応じ、オブザーバとして出席し、ときには、話題提供を行ってきた。

しかし、農業試験研究を取巻く情勢および研究水準なども大きく変化したことから、この北海道農業試験会議は本年度から、大幅な改正が行われた。すなわち、農林水産省北海道農業試験場が主催する北海道農業試験研究推進会議と、北海道立中央農業試験場が主催する北海道農業試験会議に分かれ、それぞれが相互に参加して、実施されることになった。前者は北海道内における農業試験研究の効率的な利活用を図ることを目的としているが、後者は道内の農業

試験研究機関の個別具体的な試験研究課題について、研究計画、設計および成績の検討を行い、さらにその成績の農業技術としての評価・判定を下すことを目的としている。

当研究所は両会議に正規の構成機関として本年度から参加し、試験研究に関して、打合わせ、検討および情報交換を行うようになった。そこで、両会議の概要を紹介する。

2. 北海道農業試験研究推進会議

(農林水産省北海道農業試験場が主催)

この会議は、本会議、企画部会、推進部会、および評価・情報部会よりなり、その協議・検討事項および開催時期は表-1のようである。

会議の構成者は表-2のようであり、農林水産省の北海道内の試験研究機関、北海道立の試験研究機関および当研究所のほかに、北海道開発局および北海道の普及・行政部局も含まれている。

推進部会は、分野別に分かれており、基盤研究部会、作物部会、畜産・草地部会、生産環境部会、農村計画部会、流通利用部会、水田農業部会および高収益畑作部会よりなる。当研究所の2研究室(土壌保全研究室および農業土木研究室)では、関連する専門部会に参加する。

研究成果は、1)普及(普及に移しうる成果)、2)指導(技術指導の参考となる成果)、3)研究(研究および技術開発に有効な成果)および4)行政(行政施策等に反映しうる成果)の4つに区分され、研究成果情報として公開される。

3. 北海道農業試験会議

(北海道立中央農業試験場が主催)

表－１ 本会議および各部会の協議・検討事項および開催時期

部会等名	開催時期	協議・検討事項
本 会 議	6 月	地域農業問題解決のため次の事項を協議・決定するとともに、部会等の総括を行う。 一 北海道農業に係る試験研究推進上の基本的事項 二 関係試験研究機関および普及・行政部局等との連携を要する基本的事項
企画部会	10 月	一 国立および道立試験研究機関の間の共同研究に関する研究分担に関する事項 二 助成試験候補課題の審査調整に関する事項 三 会議運営の基本方針等に関する事項
推進部会	3 月	推進部会には分野別、問題別、推進部会を設け、次の事項を協議、検討する。 一 地域農業研究ならびに地域問題解決のための分野別、問題別試験研究の推進計画および推進状況の総括的検討に関する事項 二 地域別重要問題研究およびこれに基づく重要研究課題に関する事項 三 全国専門試験研究との連携を要する課題および成果の交換に関する事項
評 価 情報部会	3 月	一 試験研究成果の普及に関する事項 二 試験研究情報の評価・選択・公表に関する事項 三 研究成果のフォローアップレビューに関する事項

表－２ 北海道農業試験研究推進会議の種類と構成員

会議(部会)の名称	運営責任者	構 成 者				その他
		農林水産省試験研究機関	道立試験研究機関	北海道開発局 研究機関	普及・行政部局	
本 会 議	北海道農業試験場長	北海道農業試験場 場長、次長、企画連絡室長 家畜衛生試験場北海道支場長	中央農業試験場 場長、副場長、 企画情報室長、 農業試験場長 食品加工研究センター 所長、企画調整部長	開発土木研究所 所長、 農業開発部長	北海道開発局次長お よび関係課長 北海道試験研究調整 責任者、首席専門技 術員	農林水産技術会 議事務局関係官 農業研究センタ ー関係官
企 画 部 会	北海道農業試験場 企画連絡室長	北海道農業試験場 企画連絡室長、研究部長 家畜衛生試験場北海道支場長	中央農業試験場 企画情報室長、 研究部長 食品加工研究センター 企画調整部長等	開発土木研究所 農業開発部長等	北海道開発局関係官 北海道試験研究調整 事務担当者	
(運営幹事会)	北海道農業試験場 企画連絡室長	北海道農業試験場 企画連絡室長、 研究交流科長等	中央農業試験場 企画情報室長、 企画課長等	開発土木研究所 農業開発部長 室長等	北海道試験研究調整 事務担当者	
推進部会						
分野別推進部会	北海道農業試験場	北海道農業試験場	道立農業試験場	開発土木研究所	北海道開発局関係官	
基盤研究部会	地域基盤研究部長	関係研究部長、室長等 家畜衛生試験場北海道支場長 関係室長等	開発研究部長等 食品加工研究センター 関係研究部長等	農業開発部長 室長等	北海道庁関係者 専門技術員	
作物部会	作物開発部長	〃	〃	〃	〃	
畜産・草地部会	畜産部長	〃	〃	〃	〃	
生産環境部会	生産環境部長	〃	〃	〃	〃	
農村計画部会	農村計画部長	〃	〃	〃	〃	
流通利用部会	畑作管理部長	〃	〃	〃	〃	

会議(部会)の名称	運営責任者	構 成 者				その他
		農林水産省試験研究機関	道立試験研究機関	北海道開発局 研究機関	普及・行政部局	
問題別推進部会 水田農業部会	北海道農業試験場 生産環境部長	〃	〃			
高収益畑作部会	畑作管理部長	〃	〃			
評価・情報部会	北海道農業試験場 企画連絡室長	北海道農業試験場 場長, 次長, 企画連絡室長, 研究部長, 企画科長, 研究 交流科長, 研究技術情報科 長, 情報資料課長等 家畜衛生試験場北海道支場長	中央農業試験場 場長, 副場長, 企画 情報室長, 研究部長, 情報課長等 農業試験場 研究部長 食品加工研究センター 所長, 企画調整部長, 加工食品部長, 企画 課長等	開発土木研究所 所長 農業開発部長等	北海道開発局関係官 北海道試験研究調整 事務担当者 専門技術員	

表－３ 各会議の検討決定事項および開催時期

会 議 名	開催時期	検 討 決 定 事 項
新規課題 検討会議	6 月	次年度から新たに取組むべき課題を検討する。
設計会議	3 月	次年度以降の試験研究の設計を検討する。
成績会議	1 月	当該年度までの試験成果のうち, 新たな農業技術として普及指導などに有効なものとして適 当と認める事項を決定する。

この会議は、新規課題検討会議、設計会議、および成績会議の３会議よりなり、その開催時期および検討事項は表－３のようである。

本会議の構成機関は表－４のようであり、国立および北海道立の農業試験場を主体とする農業関係の試験研究機関（当研究所も含む）と、北海道農政部および北海道開発局であり、行政部局も含まれている。

この会議では次の９つの専門部会（稲作、畑作、園芸、生物工学、化学、物理、病虫害、畜産および経営）を設けて、分野別検討を行う。また、必要に応じ、専門部門間にわたる特定課題を検討する部会が設けられる。この会議においても、当研究所の２研究室では関連する専門部会に参加する。

なお、成績会議において、新たな農業技術として普及奨励などに有効なものとして認めるものは、１）普及奨励事項（農業技術として普及奨励すべき事項）、２）指導参考事項（農業技術指導の参考となる事項）、３）研究参考事項（農業技術の研究・開発に有効な事項）および４）

表－４ 北海道農業試験会議の構成機関

所属等	機 関 名
北 海 道	北海道立中央農業試験場 北海道立上川農業試験場 北海道立道南農業試験場 北海道立十勝農業試験場 北海道立根釧農業試験場 北海道立北見農業試験場 北海道立天北農業試験場 北海道立新得畜産試験場 北海道立滝川畜産試験場 北海道立植物遺伝資源センター 北海道病虫害防除所 北海道原子力環境センター
農 林 水 産 省	農林水産省北海道農業試験場 農林水産省家畜衛生試験場北海道支場 農林水産省家畜改良センター新冠牧場 農林水産省家畜改良センター十勝牧場 農林水産省種苗管理センター北海道中央農場 農林水産省種苗管理センター胆振農場 農林水産省種苗管理センター十勝農場
北海道開発局	北海道開発局開発土木研究所
行 政 機 関	北海道農政部 北海道開発局

行政参考事項（農業行政施策の企画・遂行に有効な事項）の4事項よりなる。

なお、表－4に示した農林水産省研究機関の参加形態等はさらに検討がなされるとのことであり、次年度以降、変更になる可能性がある。

4. おわりに

両会議の運営に係わる事務を、農林水産省北海道農業試験場では企画連絡室が、北海道立中

央農業試験場では企画情報室が担当するが、当研究所では農業開発部が担当する。

今後、当研究所農業開発部は、北海道における農業農村整備に係わる課題の解決のために、農林水産省や北海道立の農業試験場などとともに、より一層努力したい。このため、関係各位の御指導を御願いたい。

（記 石渡輝夫）

サ □ ソ

オタクとアンタとソッチ

日本語には実に多様な2人称がある。キミ、オタク、アンタ、アナタ、キサマ、オマエ。ソッチなんてのもある。英語にも、you 以外に、you guy(s), man!, buster!などがある。前者は「お前(ら)」，後の二つは「この野郎!」あるいは「おい!」か。日常的には、若者がよく使う you guy(s)が you 以外で使われる唯一の2人称表現と言える。この意味で、英語は実に単純な言語である。

さて、日本語である。まず「キミ」。これは同年あるいは年下のものに対して使われる。しかし、自分の立場あるいは相手との親しさの度合いにより、誰に対しても使えるという訳ではない。年上の人に対して使うには大変勇気がいる。

「オタク」には、二つの使い方があるように思われる。一つは、相手の名前が分らない場合あるいは「様」をつけて自分が下位であることを示したい場合である。他の一つは、非常にぞんざいな物言いによって自分が上位であることを強調したい場合あるいは相手の名前を口に出すのもいやな場合である。すなわち、できるだけ相手の存在を無視したい状況でこの言葉が使われることが多い。これと同じ意味合いで「ソッチ」があるが、これは論外。

「アンタ」という語感も、その中に相手を個人として尊重する気持のない響きをもつ。「アンタ」の丁寧語が「アナタ」？ この言葉もかなりデリケートな意味合いをもつ。すなわち、その意味するところが広いのである。夫婦あるいは恋人同士の会話の中で女性がやさしい調子で用いるとほのぼのとしたものとなるが、女房にあるいは職場などで改まった調子でこれが用いられたら要注意。決断している状況にないことが分る。ただし、相手の名前が全く分らない場合の表現としては、それ程不快感を感じさせるものではない。少なくとも「オタク」の第2の用法よりははるかに相手を認めた表現であろう。

人々が言葉に対して持っているニュアンスは、年代あるいは生活環境によって微妙に異なるものであるから、上記の解釈は必ずしも適当ではないかもしれない。何れにしても、日本語の2人称は多様であり、その用法は人間の品格にも関わってくるように思われるのである。自戒したい。

（記 堺 孝司）